



創政クラブ
車戸明良議員

地域医療の確保と 在宅医療の充実は

中核病院について

問高山赤十字病院は新築移転の構想があると聞か、その状況は。市は中核病院のあり方も含め、今後の飛騨圏域の医療体制をどうしていくのかという視点で積極的に関わるべきではないか。

答現在の病院の老朽化に伴い2024年秋の新築移転開業を目指して、今年度から病院建設準備室を設けて基本構想の検討に向かうと報告を受けている。将来にわたり市民が安心できる医療体制の確保のためにも、県の医療構想も踏まえ、県や関係自治体とも連携しながら、積極的に関わっていく。

問医師の確保が厳しい

中、救急医療の影響は出ていないか。

答心筋梗塞等、緊急の心臓カテーテルを要する受け入れは、全て久美愛病院で担っている状況。4月からこれまでは大きな問題はない。更なる安定した体制の強化を検討する。

在宅医療について

問住み慣れた家で、家族と一緒にその人らしい療養生活を送るために、医療と介護の連携による在宅医療の充実が求められるが、現状は。

答24時間体制で在宅医療を提供している開業医・診療所は9件。どの地域でも受けられる体制の維持が課題。医師会など関係機関と研究する。



高山市議会公明党
山腰恵一議員

「地域に関わって くれる関係人口」 の創出を

空家対策について

問増え続ける空家の具体的な予防策は。

答関係団体と連携しセミナーや相談会の開催など、媒体を活用し予防・抑制の意識啓発をする。

問空家バンクの現状と今後の展開は。

答空家バンクの登録数は66件、契約数は42件。空家のモデル提案を募集し公表、所有者や希望者が活用しやすいよう整える。

問「特定空家等」に至るまでの判断基準や手続きなど市独自のガイドラインを策定する考えは。

答地域の景観や特性を重視するため市独自のガイドラインを策定したい。

人口減少社会における「関係人口」の創出

問高山市公式ファンクラブ飛騨高山めでたの会の現状と今後の展開は。

答特別会員は68名、サポート会員は98名、一般会員は約17000名である。市外在住の会員を対象とした交流会を東京・名古屋・大阪で実施する予定。仲間意識を高め応援の機運を醸成したい。

問関係人口という視点において「地域に関わって創出される人口」創出の見解は。

答諸活動に関わり合いを持つってもらう仕組みづくりとその関係を持続させることである。地域に合った関係人口を創りたい。



高山市議会公明党
中箆博之議員

国内外の大学と連携し高山を元気にしよう！

教育予算の重点配分を

問市長公約に学校におけるICT活用など教育への思い切った予算配分を盛り込む考えは。

答他都市に遅れを取っている部分があるのであれば充実を図りたい。

大学連携の展望

問大学連携センター開設1年間の活動内容は。

答シンクタンク事業として9大学による地域課題の研究、コミッション事業として32大学から約千人の教授や学生を受け入れ、研究テーマが豊富で受け入れ体制も整っているとの評価を受けている。

問高山のまち全体をキヤンパスに見立てたバーチャルな総合大学との構想ではあるが、学

部や学科という単位での大学誘致の展望は。

答大学連携センターの取り組みの充実を図るなかで大学誘致や市の政策形成への活用を進めることが現時点では現実的だと考えている。

市役所ロビーのモニタメント「無題」

問市役所ロビーに設置されている20本の鉄柱からなるモニタメント「無題」をリニューアルする考えは。

答庁舎建設当時、空間にふさわしい芸術作品として設置されたが、さまざまなきをふまえて作者にも相談してきており、市全体の窓口改革の一環としてロビーがよりよい空間となるよう、あり方の検討を進めたい。

問高山のまち全体をキヤンパスに見立てたバーチャルな総合大学との構想ではあるが、学